

労働者の権利と 労働者間競争・進学競争

ーイタリア労働総同盟（CGIL）との交流で感じたことー

浅 生 卯 一

4月27日から約2週間、自治労愛知県本部を中心とする「イタリア労働組合調査団」の一行（6名）にくわえていただき、「先進資本主義諸国で最大、最強の労働組合」といわれる、イタリア労働総同盟（CGIL）の現状の一端を知る機会を得た。

私たちがおもに滞在した地域は、イタリアの中北部にあるエミリア・ロマーニャ州のモーデナ県内のカルピという、人口6万人の自治体である。

現地での主要な訪問先と交流内容は、CGILのエミリア・ロマーニャ州本部、モーデナ県評、カルピ地区評の書記局と、ラヴェンナ港湾会社およびカルピ市役所幹部との会談、また、高級乗用車を生産する「フェラーリ工場」の見学とその工場評議会との会談、そして、カルピ地区のメーデーへの参加、「公務労働者連合」書記局長との会談（ローマで）、などであった。

現地では、つねに時間に追われるという、「日本的な過密スケジュール」の調査・交流であったため、当初予定していたIRES（社会・経済研究所、CGILの付属機関）の訪問は、残念ながら果たせずに終わったが、イタリア労働組合運動（主に、CGIL）についての個人的な印象を、日本との違いを中心にのべてみたい。

第一に、イタリアでは、労働組合加入の自由と、労働組合結成の権利を保障していく姿勢が強いことである。

この点に関連して、カルピ地区評の若いルーチョ議長（34歳）は、「さいきん、地区内での零細企業の増加や時代の変化もあって、現役労働者の組織化が前進していない。そのために、非組合員からも義務的にお金を徴収して、未組織労働者にたいする援助を強化すべきだという意見もあるが、われわれはこれに反対である」と語っていた（日本の民間大企業で多くみられる、ユニオン・ショップ制との顕著なちがいがい）。

<2頁につづく>

第二に、CGILは、産業別組織（金属・機械労働者同盟から、年金者組合までの19の産別）と、地域別組織（州本部、県評、地区評）から構成されている点である。

具体的には、個々の労働者は、日本のように企業や事業所ごとの労働組合に加入するのではなく、直接に当該産業の産業別組織に加入し、その産別組合が当該産業の企業団体との間で、「産業別の全国労働協約」を締結するとともに、それぞれ、地域ごとに結集して、州本部・県評・地区評を構成している。

第三に、年金者組合（SPI）や、失業者情報センター（CID）の活動にみられるように、労働組合（CGIL）が、現役労働者以外も積極的に組織していることである。

第四に、労働者の統一した運動の前進のために（イタリアでは、ナショナル・センターが、CGIL・CISL・UILの3つにわかれている）、組織内部での民主主義的運営がきわめて重視されていることである。

たとえば、「企業別（事業所別）協約」の締結主体となる、「工場評議会」の職場代表委員の選出に関して、「組合員から選出される委員」の数は、その工場の労働組合の数に比例して選出される仕組みになっている（その工場に3つの労働組合があれば、各々の労働組合が1/3ずつ委員を選出できる）など、多様な意見の反映が制度的に保障されている（日本の民間大企業労働組合の多くにみられる「少数派組合員」の徹底した排除との、いちじるしい差）。

こうした諸特徴をもつ（上記以外の特徴については、岡田全弘氏の力作、『イタリアの階級的ナショナルセンター』合同出版、1989年を参照されたい）イタリア労働組合運動は、日本のそれとくらべて、おそらく、企業（職場）内における労働者の権利の擁護と、企業間競争に労働者の多くが巻き込まれることを防ぐという、労働組合の基本的な役割を相当程度はたしているものと思われる。

日本では、残念ながら多くの職場において、「工場（職場）に民主主義がない」という状況と、労働者間競争のはげしさが結合しているのである。

また、労働者間競争を制限するということに関連しては、教育事情にぜひとも注目すべきである。日本では、周知のように高等教育機関への進学熱と進学競争がはげしく、その反面で「普・工・商・農」といわれるような、高校間の序列にみられるように、職業教育軽視の風潮がつよい。これにくらべて、イタリアでは、聞いたところによれば、大学は無試験で入学できるにもかかわらず、進学率は日本の1/3程度（約12%）であり、高校での職業教育が重視されており（5-3-5システムで、高校は5年制である。高校生の約8割が職業

高校生、約2割が普通高校生)、しかもこの高校における職業教育の内容に労働組合が発言しているという。

まさに、教育問題(教育改革)は、労働問題(労働改革)と結びついているといえよう。

(当研究所所員)

<労働戦線情報>

愛知ローカルセンター結成準備会 発足総会 6月21日、クラウンホテルで

愛労評が、11月27日に解散することが決定され、「連合愛知」に吸収されることになっているもとの、「労働者・県民の利益を守るローカルセンターをつくろう」と、25労組と13の地域組織、84,600人が『愛知ローカルセンター結成準備会』を、6月21日・中区のクラウンホテル会議室でひらいた。

「よびかけ人会議」代表の井上氏(自治労県本部委員長)は、「この歴史的大事業は、日本の労働者にとって未経験で創造的事業であるだけに、限りないロマンがある。社会的進歩を担う労働者階級の歴史的使命の自覚と誇りをもって、〃労働者の団結と統一の力〃を発揮するために、愛知の地から、この秋にローカルセンター結成を成し遂げ、強力なナショナルセンター誕生の壮挙に参加していく」とあいさつ。

そのご、「結成準備会発足にいたるまでの経過」「参加組合・地域組織の確認及び友好組合の紹介」「運営要綱及び活動方針」「役員体制」

をそれぞれ確認し、「総会アピール」を参加者の拍手で採択した。

総会で選ばれた「世話人」は11人で、「代表世話人」は、自治労県本部の井上委員長、「事務局長」に愛高教・見崎副委員長、「事務局次長」に全国一般愛知の黒島書記長をそれぞれ選んだ。また、「特別世話人」として、愛知統一労組懇の中原東四郎、前愛労評議長の成瀬昇の両氏をえらんだ。

ローカルセンター結成を

11月17日

港湾会館で

愛知ローカルセンター結成準備会は、第1回全体会議で、正式結成の日時を11月17日(金)午後から港湾会館5階大会議室でひらくことをきめた。

その日の夜は、港湾会館大ホールで、報告集会をかねたフェスティバルを催すをことを計画、実行委員会をつくって準備をする。

第55回定例研究会報告(1989.4.28)

愛知における軍需産業の実態と職場

報告者——名古屋大の笠井さん、三菱重工のMさん・Kさん

最初に笠井さんから、「SDIと三菱重工業名古屋航空製作所—日本軍需産業の「グローバル化」戦略の基礎過程—」と題するテーマで報告していただいた。報告は、膨大な資料を利用して日本の軍需産業の現状およびそこにおける三菱重工業名古屋航空機製作所の位置の明確化を中心におきながらも軍需産業に関するさまざまな問題を提示するというかたちで行われた。

まず、軍需産業を考えるさいの諸問題を取りあげて説明された。第一に、軍事(費)と経済(成長)との関連の問題、第二に、軍事が企業にとっては安定的な需要であり、波及効果を持つという点、第三に、1970年代以降の日本経済にとって軍事は在来産業の底上げ効果をもち、ハイテク部門の極地として航空宇宙産業が戦略部門となったという点、第四に、世界における航空宇宙産業の現状とSDIのもつ意義、第五に、そこにおける日本企業の戦略はどうなっているかという問題、第六に、航空宇宙産業の現在の世界的傾向およびその中で日本企業の国際的系列化が進行していること、そして第七に、航空宇宙産業の行動様式に関する最近の特徴として、製品の高度化と大規模化による軍事技術の「先端性」と企業経営の「採算性」の二律背反の激化によって負担の国際化、共同開発方式が進行していると説明された。

続いて、SDIと日本の先端技術の問題について説明された。まず、SDIが推進された意図について、それは、「航空宇宙産業」の国際的動員(対ソ戦略)を通じて新たな市場を創出しようというものである。これに参加している日本企業としては、「西太平洋ミサイル防衛構想研究」の受注企業を見ると大きく2グループあり、一つは三菱重工業グループでそこには、三菱重工業・三菱電気・日本電気・富士通・日立製作所・日本無線・三菱商事・三菱スペースソフトウェアが含まれており、いま一つは、「米国LTVグループ」でこちらには川崎重工業が入っている。こうした日本企業に期待されている先端技術としては、セラミックス(エンジン・エレクトロニクス用)、軽量・高強度の複合材料主翼用の炭素繊維、強化樹脂CFRP、耐熱材料、ガリウム砒素素子デバイス、光電子素子デバイス、サブミクロン・リソグラフィ、マイクロエーブ集積回路、平板型表示装置、画像識別装置、音声識別及び翻訳装置、人工頭脳、光ファイバー通信、ミリ波通信、ロケット推進技術などがあげられている。

SDIへの参加によって、日本が、今後、在来戦争型の動員体制から現代核ハイテク戦争型の動員体制へと飛躍する危険性が増してきている。

次に、日本軍需産業の歴史的経緯に

ついて、防衛庁調達実施本部実績に基づいて説明された。まず、日本経済における防衛生産の位置について見ると工業生産額に占める防衛生産総額の割合は1%にも満たないのに対して、アメリカでは20%から10%という大きな比重を占めている。防衛生産に依存している品目を見ると、日本では、航空機は80%をこえるのに対して電気通信機器は1%にも満たない。ところが、アメリカでは航空機が約47%、電気通信機器が同じく約47%となっている。

時系列で見ると1955年度以降ほぼ一貫して航空機部門が首位、それに船舶部門が、あるいは後には電気通信が続いていたが、1980年代にはいると武器・航空電子・電気通信の合計が航空機部門を上回るようになり装備のハイテク化を反映している。

次に、三菱重工業名古屋航空機製作所について説明された。まず先端技術産業分野における愛知県の位置についてみると、ファインセラミックス関連では全国の47%、航空宇宙関連では33%に達する。また、航空宇宙産業工業出荷額について東海3県の全国シェアをみると53%あり、過半数の集積を示している。次に、三菱重工の部門別売上高の推移を見ると航空機・特車の占める比率が急増しているという特徴がある。その中で、名古屋航空機製作所の最近の特徴としては、戦車などの在来型の兵器廠からハードとソフトの両者を生産するという新しい型に移行しつつあることである。また、アメリカの軍需企業はM&Aによって先端部門

の取り込みによる巨大化を進めてきたが、三菱重工・名航の場合は内製化によって先端部門を取り込んできたという違いがある。

次に、名航の変遷と売上高の特徴、生産品目の変遷、航空機生産設備の変遷、部品調達、従業員・技術者、今後の企業戦略等について説明された。

続いて、三菱重工のMさんとKさんから、それぞれの職場の実態が報告された。

まず、国家予算を食い物にしながら自己増殖を続ける軍事生産という観点から最近の日本独占資本の動向について説明された。すなわち、最近の貿易摩擦と異常円高のなかで日本独占資本は、一方で海外進出を進めつつ、他方で国内においては減量経営と生産のM&E化を推進しているが、全体として軍需生産への傾斜が強まっている。こうしたなかで、三菱重工も「ハードからソフトへ」「ハイテク産業へ」と経営戦略を転換し、「造船」「原動機」「航空宇宙産業」の三本柱で「6兆円の売上で3千億円以上の利益を」という21世紀ビジョンを掲げ、工場丸ごとのスクラップ&ビルド政策がとられ合理化再編成が推し進められている。

名古屋地域には名古屋航空機製作所があり、4つの工場で戦闘機・ミサイル・宇宙機器・ヘリコプター・輸送機などを生産している。三菱重工のなかでは成長部門と見なされており、資金も人員も重点的に配置されており、工場の拡張と設備投資は急速に進められ

てきた。79年1月に大江分工場開設、87年には小牧北工場（第一事務所・第一工場・第二工場）を増設して、大幸工場を閉鎖、88年6月には大江分工場に宇宙ロケット用の第二工場完成、88年7月には小牧北工場にミサイル用の302工場完成、また、この時に大江工場の技術新館建設開始、89年3月に小牧北工場でミサイル技術センター建設工事が開始され、7月には名古屋航空機製作所が分割され、ミサイル部門関連の小牧北工場が独立する予定になっている。

こうした設備投資ラッシュに伴い、人員配置においても長船などからの転籍が多く、長船からの配転は、85年4月に160名、86年9月には210名であった。さらに89年6月以降170名が2年間応援派遣される提案がなされている。新規採用についても名古屋航空機製作所には重点配置され、全社的には人員削減が進むなか、名航には毎年大量に採用されている（86/4.121名；87/4.146名；88/4.148名；89/4.178名）。

社内における売上・従業員数・持ち工数比率も高まっている。また軍需・官需部門指向も強まっており、主要プロジェクトには、F-15J、XT-4,767,767-300,XSH-60J,H-ロケット、ASM-ミサイル、ハトリットなどがある。

続いて、労務管理を中心とした見た職場の実態について説明された。

まず、基本的な問題として、軍需産業というのは憲法に違反する安保条約と「防衛秘密」を承認して初めて成り立つという性質の産業だということ

ある。従って、軍需生産に関連する企業では、そこで働く労働者のみならず、その企業の協力会社や下請け企業へと「防衛秘密」をテコにした支配が拡大している。

例えば、SDIが話題になり始めた87年末から入門時の検査が強化され、写真入りの社員証を提示させるようになった。自家用車にも自動車番号と社員番号を記した大きなステッカーを貼らせるようにしている。出入り業者に対する入門時のチェックも厳しくなっており保険勧誘員なども自由に入れなくなった。さらに、工場のなかに「防秘」関係者以外は立ち入ることが禁止される区域が拡大している。そこへは、さらに別の証明書を持っていないものは立ち入ることができない。そこに立ち入る資格を取るには、「経歴明細書」を提出し、それを会社と防衛庁が「調査」して適否を決定するという仕組みになっているが、その「経歴明細書」には資産や借金の内容、交友関係、関係団体、二親等以内の親族の状況など事細かに書くように要求される。調査の結果、適当と認められると証明書が発行されるが、それは写真入の大きなもので工場内の名札の代わりにそれを貼るようもとめられる。「防秘」の調査については実施されていることは明確なのだがそれがどのような内容で行われているかについては一切不明である。生協に関係しているとか民医連の病院に通っているなどということまで口出しして民主運動の妨害をしている。

さらには「防秘」をテコに労働者の

思想信条の自由まで抑圧している。例えば、長崎から配転になり狭い社宅で苦勞している労働者に要求アンケートを持っていったときに「ようやく防秘の資格が取れたばかりだから、勘弁してほしい」と対話さえも断る例がある。また、ミサイル工場では清掃員が入れないためトイレ掃除も職場の労働者が行っている。

こうした会社による職場支配の一環として、会社の言うことにたいして絶対服従するようにという「しつけ」が強化されている。とくに「安全」を口実にして行われることが多いのだが、安全とはあまり関係のないことまでも強要される。例えば、工場のなかの建て屋の交差したところで足跡マークの上に立ち「左よし、右よし」と言うてから横断するように言われている。その他、タッチ&コールなど全員で行わせるようにし、こうした会社側の指示に従わないものに対しては協調性がないということで排除していく。

こうしたなかで、労働組合についてみると、名古屋航空機は支部になっているという関係上、賃上げや応援配転などすべて上部で決定されてしまうため、支部では職場の合理化や健康問題などを取り上げることになるのだが、しかし、組合は合理化推進の立場であるため、結局支部では何も課題とすることがなく、旅行の幹旋や囲碁将棋大会など、そして選挙の時の民社党の応援などをするにとどまる。

組合役員選挙は非民主的な制度になっており、30名以上の推薦人の連署がな

いと立候補できない。会社側は連署によって推薦人の氏名を把握し、たたくことができるようになっている。

討論のなかでは、職場におけるインフォーマル組織について、それは、作業長全員が加入するという性格のもので、ただそれが会社の職制機構ではないという意味でインフォーマルと言われているということ、また、企業秘密については、軍需関連企業の場合には一般的な企業秘密ではなく、企業の存立に係わるという点で異なるということなどが話し合われた。

その他、日本の軍需産業のグローバル化の危険性、トヨタ自動車の軍需産業への参入、職場におけるQCやZD運動、改善提案制度、職場におけるパート労働、関連企業、職場で民主勢力の影響力を拡大するうえでの苦勞などについて話し合われた。(渡辺)

「月報」の発行がおくれています。本当に申しわけございません。定期発行となるよう努力をしていますのでこんごともよろしく。

なお、各団体で発行している機関紙・誌や資料などを、研究所へ御寄贈くださるようご協力ください。よろしくおねがいします。

＝ 研究所の案内 ＝

第3回

調査政策学校

と き・9月2日(土)午後1時～

3日(日)午後0時半

ところ・蒲郡・形原温泉 木村館

内容 ① 階級的ナショナルセンター
確立と90年春闘

大木 一訓(福祉大教授)

② やさしい調査のコツ

森 靖雄(福祉大教授)

③ 演習:賃金要求と賃金闘争
民間・川本製作所労組、公務
員・名古屋市職労の報告をも
とに、参加者で経験交流・討
論

コメンテーター

猿田正機(中京大助教授)

ほか

参加費:15,000円

.....
研究所 第2回総会

と き:10月1日(日)

午前10時半から

ところ:愛知県青年会館(納屋橋)

くわしいことは、後日おしらせ
します。
.....

あいち職場の健康問題研究会

1周年記念

健康問題学習交流会

*と き:9月30日(土)

午後2時から6時まで

*ところ:名古屋市婦人会館(予定)

*ないよう:

学習「働きすぎは健康にどのような
影響を及ぼすか」

講師・山田 信也(名古屋大教授)

交流――参加者から、職場の実態

などを報告しあう。民医連、過労

死弁護団、「過労死」家族の会、

などからも参加。

~~~~~

宮崎理事長、8月下旬から

東ドイツに留学 むこう1年間

研究所は、6月24日、第8回理事  
会をひらき、「第2年次」(1989.10-  
91.9)の研究所の「研究計画」・「事  
業計画」・「財政計画」について、議  
論をした。そのさい、宮崎理事長の東  
ドイツ留学中の理事長代理として、大  
木一訓所長を充てることを確認した。

研究所事務所・夏期のお休み

~~~~~  
8月12日(土)から

19日(土)まで

*21日から平常どおりです。

研究所が総力をあげてとりくんだ

『産業空洞化と トヨタグループ』

9月下旬に、新日本出版から刊行

I、わが国自動車産業の動向とトヨタグループ

*円高・「産業調整」下の自動車産業 加藤 裕（労問研）

*産業「空洞化」と自動車産業の労使関係 大木一訓（福祉大）

II、トヨタにみる産業「空洞化」

*トヨタにおける「合理化」と職場の状況 浅生卯一（労問研）

*トヨタ下請け企業の動向 森 靖雄（福祉大）

*トヨタ下請け企業労働者の実態 江崎恵二（労問研）

*アイシングループにみる「経営戦略」と下請け・再編問題 木村隆夫（労問研）

III、トヨタの経営戦略と「産業空洞化」の諸影響

*トヨタ経営の歴史的 長沢孝司（福祉大）

*トヨタ経営戦略の新展開と「合理化」の現段階 木村隆夫（労問研）

*トヨタグループの海外進出と地域経済 猿田正機（中京大）

IV、民主的規制の政策と課題

*トヨタ総行動と民主的規制 佐々木昭三（労問研）

*若干の政策提言 大木一訓（福祉大）

愛知労働問題研究所 年報（1989年）

「年報」第2号（1989年）を準備しています。発行は、10月1日の「研究所第2回総会」を予定しています。

今回の「年報」は、『働くものの健康問題』を特集します。その内容は、

*働くものの健康問題（仮題）

名大・山田信也

*愛知の労働時間・生活時間アンケート調査の結果から

名大・小野雄一郎

*労務管理の展開と職場の健康

中京大・猿田正機

*「過労死110番」と家族の会

弁護士・水野、佐久間

*健康問題にたいする職場のとりくみ 名水芳・百合草邦友

そのほか、『愛知の政治・経済』は

「愛知の軍需産業－三菱重工業を中心に」（笠井雅道）、『愛知のたた

かい』は、「トヨタグループにおける職場改善のとりくみ」（金田堅三）、「栄総行動」（加藤勝）。

また、『リレーインタビュー』は、

名古屋市職労副委員長（前婦人部長）の駒田さんが、市長候補だった、

弁護士の竹内平さんに直撃インタビューをします。

ご期待をください。

愛知の労働運動・・1989年 4月

- 1 日 愛知県官公労組協議会（組合員約62,300人）が結成総会。愛教組、名交、全農林、全通、全林野の5組合と友好組織として「推進愛知」の代表100人が参加。
- 6 日 統一労組懇第6次統一行動・愛知89春闘懇談会も決起集会
- 7 日 名古屋市長選・大企業向け宣伝行動
- 8 日 名古屋市長選挙告示、出陣式
- 10 日 県統計課発表、完全失業率2.1%、就業者数前年より1.7%増の3,500,000人（男2,105,000、女1,406,000人）「昭和63年平均の県内就業状況のまとめ」
- 13 日 名古屋市長選挙勝利労働者決起集会 1,000人が参加、前愛労評議長成瀬昇氏が激励あいさつ
- 14 日 第31回栄総行動 21ヶ所へ要請行動、130人が参加。ひる休み集会・デモには600人が参加
- 15 日 「連合愛知」が、名古屋市長選で西尾すいせんを決定。3/20に、黒川総評議長、宇佐見連合会長代理をまねいて決起集会
- 18 日 統一労組懇第7次統一行動
- 19 日 名古屋国税局包囲行動
- 23 日 名古屋市長選挙投票日
- 26 日 原発問題住民運動愛知連絡センター（準）が、中電に、無謀な「推進計画」の全面撤回、浜岡原発1、2号機の永久停止などを申し入れ

愛知の政治経済・・1989年 4月

- 3 日 21世紀万国博覧会誘致準備委員会の設立総会開催。会長に竹田愛知県商工会議所連合会会長（名古屋鉄道会長）を選出。
- 6 日 トヨタ、賃上げと時短回答提示 賃上げは12,900円（5.2%）、時短は1990年から2日、トヨタ系各社も例年どおり横並びの結果。
- 13 日 三菱重工業、名古屋航空機製作所の組織変更を発表。7月1日付で名古屋航空機製作所から小牧北工場を分離して「名古屋誘導推進システム製作所」（名誘）とし、これまでの名古屋航空機製作所は「名古屋航空宇宙システム製作所」（新名航）に。新名航には大江工場、大江分工場、小牧南工場、羽田補給所が所属航空機と宇宙機器を担当し、航空自衛隊の次期支援戦闘機（FSX）やH2ロケットを生産。名誘には小牧北工場と秋田県の田代試験場が所属し、誘導機器、航空・宇宙エンジン油圧機関関係製品を生産、小牧北工場ではミサイルの増産も。
- 18 日 トヨタ、英国の乗用車組立工場を、ミッドランド（イングランド中部）地方ダービー市郊外のサウスダービーシャー地区バーナストンに建設すると正式発表。
- 26 日 トヨタ、米国での小型トラック生産拠点をNUMMIに正式決定。GMとの合併終了後は、トヨタの北米第三の単独生産拠点に。